カイトとリュウさんの

遺跡へ行こう

その6　とっとり弥生の王国スペシャル！

▲鳥取県立むきばんだ史跡公園

△青谷上寺地遺跡　発掘現場

弥生博のカイトとリュウさん

カイトとリュウさんは、大阪府立弥生文化博物館の展示品から飛び出した、博物館のキャラクター「館キャラ」です。本冊子では「弥生遺跡」や各地の「博物館」を訪ねて日本中をかけめぐります。二匹？の活躍にご期待ください！

本冊子は、文化庁からの補助金を受け、日本全国の代表的な弥生遺跡を紹介するために制作しました。

日本列島は、いまでこそ「日本」というひとつの国にまとまっていますが、弥生時代にはたくさんのクニがそれぞれの地域で独特な文化を築いていました。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

本冊子で紹介する遺跡を訪れれば、出土した遺構や遺物はもちろん、遺跡の周りの自然や地形環境、気候のほか、遺跡の立地など、自分たちの地域とは異なる部分に気が付くはず。

島国ならではの多様な風土が生み出した、特色豊かな弥生文化。それはいまの日本文化の源流となるものです。
時には、悠久の時を超え、遥か先人たちの叡智に想いを馳せてみませんか。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

皆さんこんにちは。私は青谷上寺地遺跡から見つかった人面軽石です。名前はまだありません。

▲人面軽石

何に使われたモノなのかもわからない私ですが、青谷上寺地遺跡についてご紹介をいたします。

青谷上寺地遺跡があるのは、「因州和紙の里」として有名な鳥取市青谷町。水田の地下深くに眠っていた青谷上寺地遺跡は、地元で古くから知られていた遺跡、というわけではありません。この町を横断する高規格道路の建設が計画されたため、道路予定地に遺跡があるかどうか歩き回って調べたところ、弥生土器のかけらが拾われたことが遺跡発見のきっかけです。その後、平成八年からの試掘調査（試し掘り）を経て、平成一〇年から本格的な発掘調査（第一次調査）が始まると、その調査成果は一躍全国的に注目を浴びることとなりました。板や杭で護岸された溝。保存状態が極めてよく、今でもそのまま使えそうな大量の木器、鉄器、骨角器。海を越えた交流を示す中国製の鏡や貨幣。そして私のような、誰も見たことのない謎の出土品。極め付けは、溝の中から見つかった大量の人骨です。いくつかの頭蓋骨の中から、我が国で初めて「弥生人の脳」が見つかったことで、青谷上寺地遺跡の知名度は一気に高まり、「地下の弥生博物館」というニックネームが付けられました。

道路は予定どおり完成しましたが、弥生時代の社会や文化のあり方を知るうえで極めて重要な遺跡であることが明らかとなったため、平成一三年以降、鳥取県埋蔵文化財センターが調査を続けることになりました。発掘調査のほか、一〇〇か所以上のボーリング調査によって、当時の地形、環境を調べた結果、遺跡の範囲や特徴が明らかとなったことから、平成二〇年三月二八日、青谷上寺地遺跡は国の史跡に指定されました。

▲第１次調査の調査区

海辺のムラの風景

現在の青谷町の街並みが広がる青谷平野には、かつて浅い内湾（潟湖）が入り込んでいたことが、発掘調査やボーリング調査の成果からわかっています。弥生時代前期の終わりごろ、この内湾に面した微高地に弥生人がやってきたときから、青谷上寺地遺跡の集落の歴史が始まります。交易やものづくりなどの活動の舞台となった、広さ約三ヘクタールあまりのこの微高地は「中心域」と呼ばれています。中心域の背後には「周辺域」と呼ばれる低湿地が広がっていました。中心域と周辺域を合わせた青谷上寺地遺跡の広さは、東京ドーム七個分の約三三ヘクタールにもなります。

▲矢板で護岸された溝（第１次調査）

青谷上寺地遺跡からは、竪穴住居跡は一棟も見つかっていません。その一方で、柱や壁材、床材、はしごなど、建物の部品（建築部材）が約七千点も見つかっています。どうやら、竪穴住居とは構造の異なる平地式や高床式の建物が立ち並んでいたようなのですが、中心域は限られた範囲しか調査されていないこともあっ

▲弥生時代終わりごろ（1800 年前）の青谷平野（復原図）

て、中心域内部にどのような建物が何棟くらいあったのかはよくわかっていません。

中心域は、弥生時代後期には東・西・南辺を溝で区画されるようになります。内湾に面した北側には、まだ見つかっていませんが、港があったはずです。この遺跡からは五〇点に及ぶ船の破片や、大小六隻の船を描いた板が見つかっています。港の跡の発見と中心域内部の解明は今後の調査に乞うご期待です。

周辺域には、水田が営まれたほか、数多くの溝や流路が確認されています。これらの溝の多くは、柱や壁板などを再利用した杭や板で護岸されていました。

暮らしと道具

青谷上寺地の弥生人たちはどのような暮らしをしていたのでしょう？弥生人というと、皆さんは、せっせとコメ作りをしていたイメージがあるのではないでしょうか。青谷上寺地遺跡からは水田の跡や炭になったコメそのもの、そして農具が数多く見つかっていますから、コメ作りをはじめとする農耕を行っていたことは確かですが、目の前に広がる内湾や外洋での漁撈活動も活発に行われていました。この遺跡からは、動物の骨や角、木、石などで作った漁撈具がたくさん見つかっています。釣針、おもり、海獣や大型の魚を突くためのモリ・ヤス、網の枠…。その他、鹿角の先端をヘラ状に加工した道具は、「アワビオコシ」として使えそうです。これらのうち、骨角製の釣針や石製のおもりには、北部九州とよく似た形のものがあります。どうやら北部九州から山陰地方にかけての日本海沿岸には、漁民が活発に行き交う「海の路」があったようです。一方で、骨角製のモリ先や木製の丸木舟などには、この遺跡独特の形をした道具もあります。舟を操り、バラエティーに富んだ漁撈具を使いこなした青谷上寺地の弥生人は「海人集団」だったと言っていいかもしれません。

▲ 骨角製の漁撈具

北側が海に面した青谷平野は、残る三方を山に囲まれています。この山に棲むシカやイノシシをはじめとする動物たちは、骨角器の材料として骨や角を、食料として肉や血を弥生人に提供しました。青谷上寺地遺跡からは占いに使った卜骨が約二五〇点出土していますが、そのほとんどがシカとイノシシの肩甲骨です。

また、これらの山には、鍬や鋤など農具の材料となるカシ類、容器の材料となるヤマグワ類、舟や建物の部材となるスギなど多様な木々が生えており、容易に利用することができました。海の幸と山の幸の両方に恵まれていたことが、青谷の地に弥生人を惹きつけた理由だったのでしょう。

▲ 卜骨

ものづくりと交易

青谷上寺地遺跡では、食料生産だけではなく「ものづくり」も盛んに行われていました。代表的な生産品は「玉」。碧玉や緑色凝灰岩という緑色の石から作ったアクセサリーです。青谷上寺地遺跡では、石川県小松市付近で採れる碧玉を使って「管玉」を作っていました。北陸産碧玉製の管玉は、北部九州の王や有力者の墓である「甕棺墓」から副葬品として多量に見つかりますが、その中には青谷上寺地遺跡で作られた管玉も含まれているのではないでしょうか。つまり、北陸地方と北部九州の中間に位置する青谷上寺地遺跡は、玉交易の中継拠点として発展したと言えそうです。

おそらく青谷上寺地遺跡の弥生人は、北部九州の有力者が欲しがった玉と引き換えに、大陸・半島から海を越えてもたらされた貴重品である「鉄と鏡」を手に入れたのでしょう。青谷上寺地遺跡からは、本州の遺跡としては屈指の四〇〇点以上の鉄器が出土しています。また、中

▲ 玉作り関連遺物

期後葉には星雲文鏡と呼ばれる中国・前漢で作られた青銅鏡の破片がもたらされました。弥生時代の星雲文鏡としては本州唯一の出土例です。

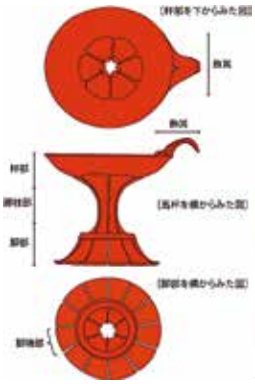
弥生時代後期になると、北陸からの碧玉の供給が途絶えたらしく、青谷上寺地遺跡の玉作りは終息してしまいます。それにも関わらず、大陸・半島・北部九州製の鉄器、中国の貨幣（貨泉）や青銅鏡など、西からの貴重品の流入は続きました。なぜでしょう？

この時期、青谷上寺地遺跡から日本海沿岸の各地に広まったものに「花弁高杯」と呼ばれる木製容器があります。全体が赤く塗られ、杯部の底面に花びらを思わせる浮き彫り文様を持つほか、把手のような装飾が付くなど、美しく飾られた容器です。この花弁高杯、青谷上寺地遺跡で十数点出土している他は、石川県や島根県の遺跡から出土しています。精巧な作りであること、出土する遺跡が限られていることから、各地の有力者への「贈り物」だった可能性があります。そうであれば、豊富な外来の貴重品は花弁高杯との交換で手に入れたのかもしれません。

▲星雲文鏡

▲大陸・半島製の遺物

花弁高杯以外にも、青谷上寺地遺跡からは優美な木製容器が多数見つかっており、「弥生の匠」とも呼ぶべき腕利きの職人集団がいたことが推測されます。彼らの生産活動を支えたのは、豊富な森林資源と優秀な鉄製工具です。細かな細工に適した独特の形の鉄の工具も見つかっており、木器職人が鍛冶職人に頼んで作ってもらったものかもしれません。



▲花弁高杯（左は模式図）

弥生時代後期になると、田下駄や木製の穂摘具が急増するとともに、又鍬に改良が加えられるなど、農耕が活発化した様子も窺えます。あたかも、職人集団や交易に従事する海人たちが集まってきて集落が賑やかさを増し、食料増産の必要に迫られたかのようです。このようして青谷上寺地遺跡は、日本海沿岸航路における交易拠点、有力者層向け高級木器「青谷上寺地ブランド」の生産拠点として繁栄することになったのです。「交易拠点としての港湾集落」と評価される集落像は、「弥生時代のムラ＝農村」という従来のイメージを大きく塗り替えることになりました。

▲人骨の出土したようす

殺傷人骨の謎

弥生時代の終わり頃、繁栄を謳歌していた青谷上寺地遺跡を悲劇が襲いました。中心域東側の区画溝から出土した、約五三〇〇点に及ぶ老若男女の人骨。その内の一一〇点には鋭利な刃物による傷痕が残っていました。彼らは何らかの殺戮行為の犠牲者だったのです。墓に埋葬されることなく、溝の中に埋められていたことからも、事件の異常さが窺えます。集団内部の抗争なのか、それとも外部から襲撃されたのか。そうであるならば、どこの集団がどのような理由で襲ったのか。これまで様々な解釈が示されましたが、明確な答えは見つかっていません。

▲銅鏃の刺さった寛骨

人骨が埋まった後も、この溝は杭を打ち直すなどの改修が行われていることから、この悲劇によって集落が廃絶してしまったわけではありません。しかし、この頃から青谷上寺地遺跡は衰退を始め、古墳時代前期には終焉を迎えます。この時期には、近畿地方にヤマト王権が成立することから、列島規模で交易ルートの再編が起こったことが推測されています。青谷上寺地遺跡は新たに確立した交易ルートから外れ、交易拠点としての役割を終えたのかもしれません。

古代の青谷上寺地遺跡

弥生時代集落として有名になった青谷上寺地遺跡ですが、実は古代（奈良時代頃）の道路と耕地区画の跡も見つかっています。道路跡は断面台形の盛土の上面に砂利を敷いて路面としており、約四五ｍに渡って直線的に伸びていることから、「山陰道」と呼ばれた官道である可能性が考えられます。この道路に直交する何本かの大きな畦は、正確な二一ｍ間隔で設けられていることから、「条里地割」と呼ばれる古代の耕地区画の痕跡と考えられます。さらに最近の調査では、かつての「中心域」に相当する高まりの範囲で、大規模な土地造成が行われた痕跡が確認されつつあり、官道に関係する重要な施設があった可能性も浮上してきています。今や青谷上寺地遺跡は、古代の研究においても欠くことのできない重要な遺跡となっています。

▲古代山陰道と考えられる道路遺構

青谷上寺地遺跡へようこそ

青谷上寺地遺跡の出土品は、鳥取市青谷町の「青谷上寺地遺跡展示館」と、鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室「収蔵展示室」でご覧いただくことができます。「収蔵展示室」は出土品の収蔵状況をご覧いただけるように公開しており、職員が解説をいたします。

青谷上寺地遺跡の現地には解説板があるのみですが、現在、遺跡の特質と魅力を体感できる空間として整備復元するための検討を進めています。また、整備に必要な情報を得るための発掘調査も継続して行っています。発掘調査は公開していますので、もしかしたらあなたも大発見に立ち会えるかもしれません。

ぜひ、青谷上寺地遺跡に足をお運びいただき、弥生人の技と英知に触れてみてください。

▲発掘調査現地説明会のようす

鳥取県埋蔵文化財センター 青谷調査室（収蔵展示室）

住　所：〒689-0592
鳥取県鳥取市青谷町青谷 667
鳥取市青谷町総合支所２階
電　話：0857 － 85 － 5011
開室時間：9 時～ 17 時
入場料：無料
休館日：土・日曜日、祝日
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

▲埋蔵文化財センターホームページ

▲青谷調査室フェイスブック

※発掘調査の見学についてのお問い合わせは青谷調査室までお願いします。

【交通アクセス】（自動車）青谷羽合道路青谷 IC より 3 分（鉄　道）JR 山陰線青谷駅より徒歩約 10 分

青谷上寺地遺跡展示館

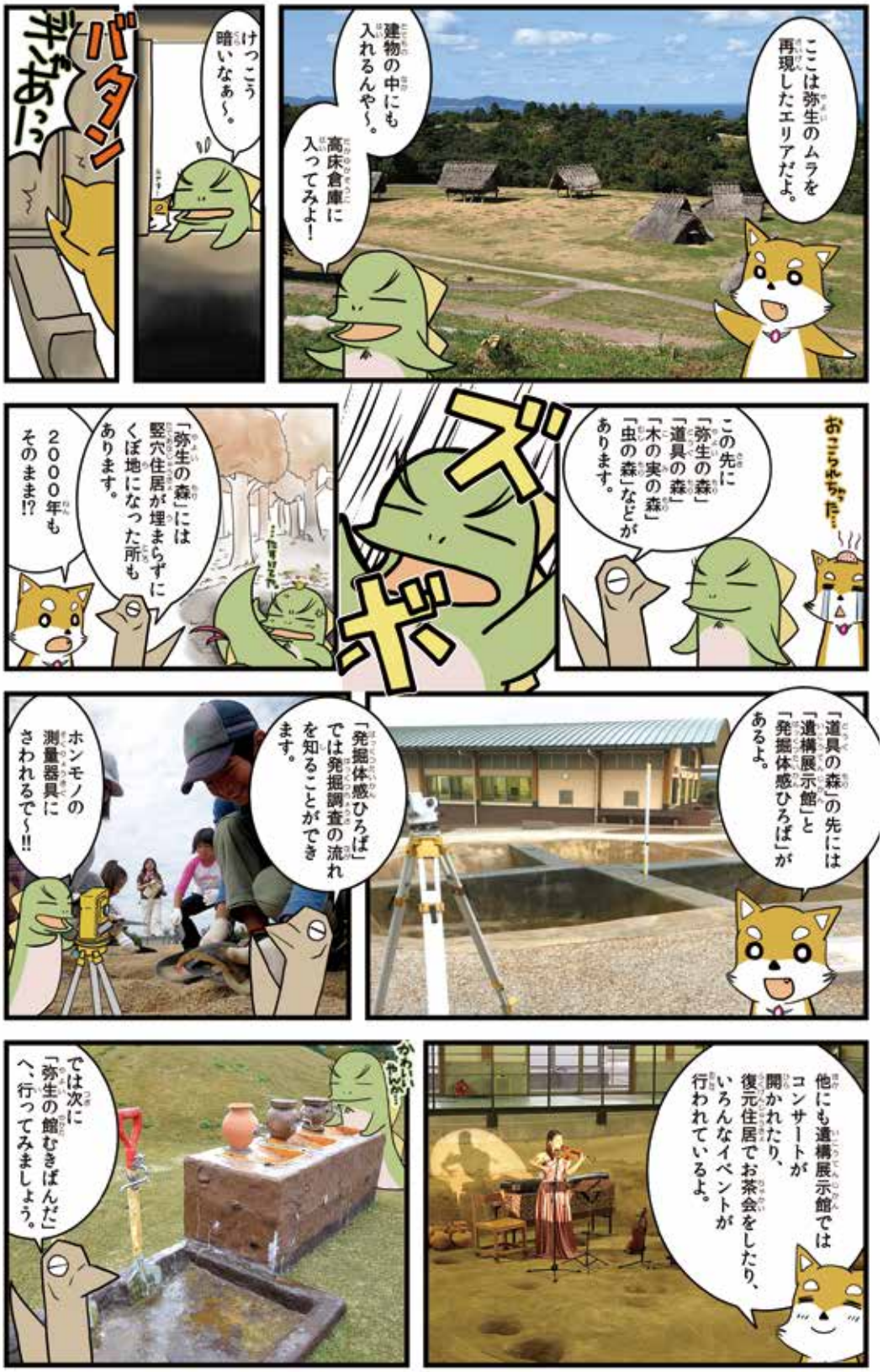
住　所：〒689-0501
鳥取県鳥取市青谷町青谷 4064
電　話：0857 － 85 － 0841
開館時間：9 時～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）　入館料：無料
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（その日が平日の場合）
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）※その他展示替えによる臨時休館あり

◀展示館ホームページ

【交通アクセス】（自動車）青谷羽合道路青谷 IC より 2 分（鉄　道）JR 山陰線青谷駅より徒歩約 3 分

鳥取県埋蔵文化財センター
http://www.pref.tottori.lg.jp/24250.htm
青谷調査室フェイスブック
https://www.facebook.com/yayoi.aoyakamijichi/
青谷上寺地遺跡展示館
http://www.tbz.or.jp/kamijichi/

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう


ここは弥生のムラを再現したエリアだよ。
建物の中にも入れるんや～。
高床倉庫に入ってみよ！
けっこう暗いなぁ～。
バタン
ギィぁぁ
おこられちゃた…
この先に「弥生の森」「道具の森」「木の実の森」「虫の森」などがあります。
ズボッ
「弥生の森」には竪穴住居が埋まらずにくぼ地になった所もあります。
2000年もそのまま!?
「道具の森」の先には「遺構展示館」と「発掘体感ひろば」があるよ。
「発掘体感ひろば」では発掘調査の流れを知ることができます。
ホンモノの測量器具にさわれるで～!!
他にも遺構展示館ではコンサートが開かれたり、復元住居でお茶会をしたり、いろんなイベントが行われているよ。
かわいいやんか！
では次に「弥生の館むきばんだ」へ、行ってみましょう。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

それにしてもいっぱい歩いて疲れたわ～。
坂もあったしね。
妻木晩田遺跡は170ヘクタールとても広い遺跡なのです。
ま…ワタシは飛べるそすさとね…
170ヘクタールってピンとこんなぁ。
こんなのがあったよ。遺跡の広さが比べられるんだ。
弥生の館では電動自転車のレンタルをしているむき！
むき!?
むきばんだとくらべてみよう
池上曽根遺跡と比べてもえらい広さや!!
つかれるわけわで～～
池上曽根
妻木晩田
妻木晩田遺跡の「むきばんだ」むき！
次のページからぼくが色々紹介していくむき～！
弥生の館では、むきばんだがいろんなところに隠れているよ！
むきばんだ…
むきばんだ!!
レンタサイクルは
運動になるんでしょう
先に知りたかったわ～。

カイトとリュウさんの遺跡へ行こう

▲むきぱんだ

こんにちは！ボクは大山町役場観光HPのマスコットキャラクター「むきぱんだ」。ここからは、むきぱんだ弥生のムラの「名誉ムラ人」にも認定されたボクから、遺跡の見どころや、いろいろな弥生体験について紹介するむき～。

妻木晩田遺跡は、鳥取県西部の西伯郡大山町と米子市にまたがる標高八〇～一八〇mの丘陵「晩田山」にあるんだ。

▲上空から見た妻木晩田遺跡（西から）

遺跡の広がりはなんと一七〇ヘクタール！広すぎてピンとこないけれど、東京ドームが三〇個以上もおさまる広さなんだって。

妻木晩田遺跡の存在は古くから知られていて、昭和六年には鳥取県内で初めて竪穴住居跡の発掘調査も行われてるんだよ。でもその後、この丘陵でゴルフ場の建設が計画されたんだ。その工事に先立って行われた大規模な発掘調査が妻木晩田遺跡の運命を変える。平成七年から平成一〇年まで続いた発掘調査では、遺跡面積の一割にあたる約一七ヘクタールが調査され、紀元前一世紀から紀元後三世紀頃までの、約三〇〇～三五〇年間につくられた約四五〇棟の竪穴住居や、約五一〇棟の掘立柱建物、そして三四基の墳丘墓が見つかったんだ。すごい数むき！

▲ゴルフ場開発に伴う発掘調査直後の状況（東から）

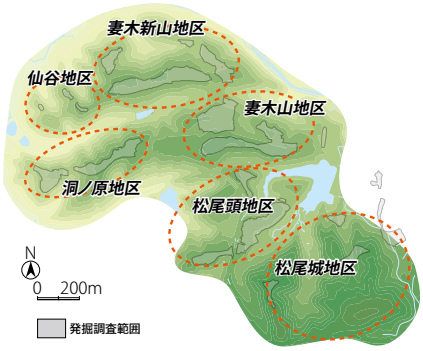
弥生時代後期（二世紀頃）を中心とする大規模な集落跡の発見は、一躍脚光を浴び、市民や研究者による遺跡の保存運動が活発に進められることになったんだ。そのおかげで、平成一一年四月にゴルフ場建設の中止と、遺跡の全面保存が決定し、その年の一二月には国史跡に指定されたんだ。国史跡に指定された面積は約一五〇ヘクタールで、弥生時代の集落跡としては国内最大級なんだって！

弥生時代の日本には大小さまざまな「ムラ」があって、それらが集まっていくつもの「クニ」が存在していたんだ。妻木晩田遺跡は大山の麓にあったクニの中心的なムラだったと考えられているんだよ。中国の歴史書として有名な『三国志・魏書』の一部（魏志倭人伝）には「倭人は帯方東南大海の中に在り。山島に依りて国邑を為す。」という記述があって、弥生時代のクニの姿を示しているんだけど、妻木晩田遺跡はかつて大山の麓にあった「国邑」（大小のムラからなる地域的なまとまり、あるいはその拠点となる集落）の暮らしぶりを現代に伝えてくれる遺跡なんだ。

▲美保湾から望む妻木晩田遺跡

妻木晩田遺跡の変遷

妻木晩田遺跡では、海に面した丘陵の上にムラをつくり、たくさんの人が暮らしていたんだ。この丘陵はいくつかの小さな丘にわかれていて、それぞれ住居のまとまりや、お墓の有無に違いがある。だから、ゴルフ場建設の前の発掘調査では丘ごとに洞ノ原・妻木山・妻木新山・仙谷・松尾頭・松尾城という遺跡名が付いていたんだって。でも、国史跡に指定される時には全体で一つの遺跡と評価され、六つの遺跡名は地区名として呼ばれるようになったんだ。



▲ 妻木晩田遺跡の地区区分

妻木晩田遺跡で最初に弥生人が住み始めるようになったのは松尾頭地区で、紀元前一世紀頃（弥生時代中期後葉）。それが一世紀後半頃（後期前葉）になると、妻木山地区や妻木新山地区にも居住地が広がったみたい。居住地から離れた洞ノ原地区では、海を望む丘の上にムラの有力者（リーダー）を埋葬した「墳丘墓」が造られてるんだよ。洞ノ原地区の墳丘墓のうち十一基は、貼石を施した方形の墳丘の四隅が突き出る独特の形をした「四隅突出型墳丘墓」なんだ。四隅突出型墳丘墓は、島根県や鳥取県中・西部といった山陰地方を中心とする日本海沿岸地域に分布していて、特に出雲地方に多いんだって。お墓に埋葬された有力者は出雲地方と交流があったのかな？

洞ノ原地区には四隅突出型墳丘墓群が築かれたのと同じ頃に、もう一つ特別な場所が存在していたんだ。それは直径六五mの環壕に囲まれた空間。発掘調査の結果、環壕に囲まれた場所からは建物は見つからなかったんだ。でもここからは、洞ノ原地区に造られた墳丘墓群がよく見える。ムラの重要な祭りを行うような聖なる場所だったのかもしれないね。

二世紀前半頃（弥生時代後期中葉）になると、妻木新山、妻木山、松尾頭の各地区で竪穴住居の数が増えてくる。そして、居住地から離れた仙谷地区には墳丘墓群が造られるんだ。仙谷地区の東側丘陵では、最初に尾根の最も海よりの場所に三号墓が造られた後、続く二世紀後半にかけて二・五・七・六号墓が造られているよ。各墳丘墓の周りからは、死者を埋葬した後に供えられた器台や壺などが出土しているので、墓上で儀式が行われたことがわかるんだ。また、西側丘陵に位置する仙谷一号墓は、妻木晩田遺跡で確認された墳丘墓のなかで最も大きく、一辺が約一五メートル、高さは一メートルを超える四隅突出型墳丘墓なんだ。ムラが最も栄える時期の少し前に造られたお墓なので、ムラの繁栄を築いた有力者が眠っているのかもしれないね。洞ノ原地区もそうだけど、お墓が造られてる丘からの眺めはとってもよくって、海がよく見えるんだ。ムラの歴代の有力者のお墓は、海への眺望を強く意識した場所に造られたみたいだね。

二世紀後半（弥生時代後期後葉）は、丘陵全体に居住地が広がる、ムラが最も栄えた時期なんだ。松尾頭地区と妻木山地区では住居が密集して造られていて、ムラの中心地だったみたいだね。松尾頭地区では、祭殿とみられる大型の庇付掘立柱建物も見つかっているんだよ。

三世紀初め頃（弥生時代終末期）には、竪穴住居の数が一気に減少するんだ。なにがあったんだろうね？けど、三世紀前半（弥生時代終末期後半）になる

▲ 四隅突出型墳丘墓群（洞ノ原地区東側丘陵）

写真提供：米子市教育委員会

▲ 環壕（洞ノ原地区西側丘陵）

▲ 仙谷５号墓の供献土器

仙谷２・３・５号墓 ▶
（手前から５、２、３号墓）

写真提供：大山町教育委員会

SB41 復元模型

▲庇付掘立柱建物（松尾頭地区 SB41）
発掘状況写真提供：大山町教育委員会

と、また竪穴住居の数が増えて、ムラが拡大したみたい。この頃の中心的な居住地は妻木山地区と松尾頭地区で、お墓は仙谷地区、そして松尾頭地区に造られたんだ。

その後、古墳時代になると再び竪穴住居数が一気に減って衰退に向かったと考えられていたんだけど、平成二五～二七年に行われた仙谷地区の発掘調査で新たな発見があったんだ！このとき見つかった仙谷八号墓・九号墓は三世紀後葉（古墳時代前期前葉）に造られたお墓で、特に八号墓は仙谷一号墓に匹敵する大きなお墓なんだ。しかも、石棺には遺跡内には産出しない「無斑晶質輝石安山岩」が使われていて、一番大きな蓋石は長さ一二〇㎝、重さ一二〇kgもあったんだ！石棺の中に残っていた頭骨の一部は、「やや男性的」な特徴をもっていると鑑定されたんだよ。ムラが終わりを迎えた頃にも、これだけ立派なお墓を造らせる有力者がいたんだね。

その後、四世紀には妻木晩田遺跡がある丘は、人々の居住地として使われなくなり、墓地として古墳群が造られたんだ。

▲仙谷８号墓（北から）

▲仙谷８号墓石棺

「交易」により獲得した品々

妻木晩田遺跡では、ヤリガンナや穿孔具（キリなど）、斧、ノミなどの工具類を中心に四〇〇点を超える鉄器が出土してるんだ。鳥取市の青谷上寺地遺跡と並んで、日本有数の弥生鉄器の出土遺跡と言えるんだよ。縄文時代以前からの主要な道具だった石器や骨角器に加え、鉄器を得たことで様々なモノ作りの技術や作業効率が急速に向上したんだよ。

でも、弥生時代の日本では鉄を加工して道具を作ることはできたけど、鉄そのものを作り出す技術はなかったんだ。だから、鉄素材は中国大陸あるいは朝鮮半島から輸入してた。妻木晩田遺跡の鉄器の素材となった鉄も、海を超えて運ばれてきたものかもしれないね。

また、妻木晩田ムラの人々は、舶載（＝外来）の青銅鏡（破鏡）やガラス玉などの貴重品のほか、碧玉（島根県）やサヌカイト（香川県）といった、遠隔地で産出する石材も獲得しているんだ。墳丘墓に葬られた有力者は、ムラをとりまとめるだけでなく、遠方から貴重な物資を得るための交渉役でもあったんだろうね。

▲鉄器

ガラス玉▶

復元された「弥生のムラ」の姿

現在の妻木晩田遺跡は調査研究成果を活かして整備され、「むきばんだ史跡公園」として公開、活用されているんだ。

発掘後の研究では、妻木晩田遺跡で見つかった数百棟にのぼる建物のうち、同時に建っていた可能性がある建物跡を選びだしていくと、数棟程度の竪穴住居を中心とするまとまりがあることがわかったんだよ。ムラでは家族、親類などのグループがまとまって暮らしていたんだろうね。ムラが一番大きくなった二世紀後半には、このようなまとまりが丘の上に数多く集まっていたと考えられているんだ。

妻木山地区の「弥生のムラ」は、その頃のムラの姿を再現しているよ。ここで

▲玉作資料（碧玉・緑色凝灰岩）

◀破鏡
（内行花文鏡）

は、復元された六棟の竪穴住居が丘を囲むように並んで建ってる。竪穴住居の屋根はススキなどの茅を葺いた草屋根と、草屋根の上に土をのせた土屋根があるよ。全国の史跡で復元されている竪穴住居は草屋根が一般的なんだけど、妻木晩田遺跡では、火事で焼け落ちた住居（焼失住居）が約二〇棟見つかっていて、その発掘成果から土屋根の住居があったことが分かったんだ。

掘立柱建物の多くは、竪穴住居のまとまりに付属するように建てられているので、食物や道具を保管するための高床倉庫など、家族や親類グループで共有する建物として利用されたと考えられているんだ。「弥生のムラ」では、見つかった建物跡の大きさから、大きいものを板壁（いたかべ）の高床倉庫、小さいものは屋根倉（やねくら）風の高床倉庫として復元しているよ。

▲焼失住居（妻木山地区）
写真提供：大山町教育委員会

▲土屋根住居

▲草屋根住居

▲復元高床倉庫
（上：屋根倉風、下：板壁）

「弥生のムラ」の周辺には、弥生人が主に農工具の柄や容器などに利用したアラカシやケヤキ、ヤブツバキなどの木が観察できる「道具の森」を育てているほか、アカメガシワやカラスザンショウ、アカマツ、クリなどが生えていて、弥生人が暮らしていた頃の植生環境を再現してる。植物を観察しながら、のんびり自然散策をしても楽しいよ。

洞ノ原地区には、竪穴住居や高床倉庫以外に四隅突出型墳丘墓群も復元されているよ。洞ノ原地区の丘陵先端からは、淀江平野、美保湾、弓ヶ浜半島が一望できるんだ。そこから見える景観はまさに絶景！天気の良い日には北側に隠岐（おき）が見えるかもね。

駐車場隣にある「弥生の館むきばんだ」では出土品が展示してあるだけでなく、毎週土日と祝日には、火おこしや勾玉づくりといった定番メニュー、土器・はにわづくりやカゴづくりなど、日替わりの弥生体験が予約なしでできるんだ。そうそう、予約なしといえば、五月から一一月の日曜祝日は妻木山地区の「発掘体感ひろば」で発掘体験もできるよ。

どう？みんな、妻木晩田遺跡に来てみたくなったでしょ。「よみがえる弥生の国邑」妻木晩田遺跡にたくさんの人が訪れてくれることを待ってるむき～！

鳥取県立むきばんだ史跡公園

住　　所：〒689-3324
鳥取県西伯郡大山町妻木 1115-4
電　　話：0859 － 37 － 4000
開館時間：９時～ 17 時
（入園は 16 時 30 分まで）
７・８月は９時～ 19 時
（入園は 18 時 30 分まで）
休 園 日：年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）
毎月第４月曜日
（祝日の場合は、その翌日）
http://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/

【交通アクセス】
（自動車）米子自動車道米子 IC より約 20 分
山陰自動車道淀江 IC より約 5 分
(JR)　米子駅から最寄りの淀江駅まで約 15 分
淀江駅からどんぐりバス（1 日 2 便、冬季・日祝日休み）
またはタクシーで約 5 分
鳥取駅から約 2 時間

文化庁
平成二八年度文化庁
地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
【カイトとリュウさんの遺跡へ行こう
その６　とっとり弥生の王国スペシャル！
地下の弥生博物館　青谷上寺地遺跡
よみがえる弥生の国邑　妻木晩田遺跡】
企画・編集：館キャラ連携プロジェクト実行委員会
大阪府立弥生文化博物館
マンガ：宮野ミケ
テキスト：鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室　君嶋俊行
鳥取県立むきばんだ史跡公園　高尾浩司
発 行 日：平成二九年二月三日
印 刷 所：株式会社近畿印刷センター